

## 普及活動情勢報告（令和8年3月分）

須崎農業振興センター農業改良普及課

### 水田の維持管理に向けて ～先行取組に向けた意見交換会を開催～



活動方針を協議する  
水稲代表者と研究会員

2月16日、『J A土佐くろしお水田維持管理対策研究会』が水田維持管理の先行取組に向けた水稲代表者との意見交換会を開催し、須崎市安和の水稲代表者1人とJ A土佐くろしお村村営みのりを含む研究会構成員7人が今後の取組について協議しました。

農業改良普及課は、研究会設立の経緯の確認と、地域の水稲農家等と協議する場の設置に向けた方針について提案しました。

参加者からは、地域での話し合いの重要性や安和地区での先行取組に賛同する意見がありました。また、参加した代表者の今後の取組への参画も得ることができました。

農業改良普及課は、今後も“水田を維持管理できる仕組みづくり”に向けて、地域の水稲農家との話し合いを進めていきます。

### 今後の栽培管理を確認しましょう ～J A土佐くろしおインゲン部会現地検討会～



今後の栽培管理について  
説明する普及職員

2月17日、須崎市及び中土佐町の生産者ほ場で、J A土佐くろしおインゲン部会が現地検討会を開催し、生産者13人が参加しました。

農業改良普及課は、今後の栽培管理と病害虫の防除、品種比較調査の途中経過について説明しました。

生産者からは、「新品種の方が樹勢を維持できているように感じる」「害虫が増え始める前に徹底して防除したい」といった意見がありました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して、品種調査や巡回指導を行い、インゲンの収量・品質向上を支援していきます。

### ユズ面積拡大！！ ～J A高知県津野山ユズ部会定植講習会～



ユズ苗の状態について  
説明をする普及職員

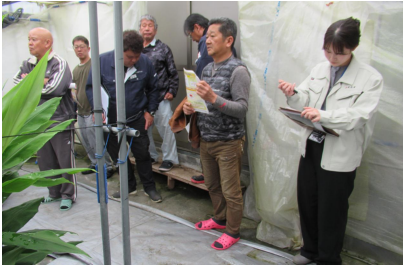
2月26日、J A高知県高西営農センター津野山ユズ部会で、令和7年度に果樹経営支援対策事業を活用して新植する農家を対象として定植講習会が開催され、8人が参加しました。

農業改良普及課は、定植時の注意点や定植までの苗の管理について説明しました。

参加者からは、定植した2年生苗の残す枝や切り返す位置、植え付け時期等の質問がありました。

農業改良普及課は、今後も部会活動を中心にJ Aと協力して津野山ユズ部会の活動支援に取り組んでいきます。

## 春先の管理を徹底しましょう ～JA土佐くろしおみょうが部会現地検討会～



意見交換を行う生産者ら

2月26日から3月6日にかけて、みょうが部会の現地検討会が4地区の生産者ほ場で開催され、生産者のべ124人が参加しました。

農業改良普及課は、電照方法、光合成の適温等、高温対策、病害虫対策、生理障害への対応などを説明しました。また、ベンレート水和剤の使用法や散布時の注意点、防除例について再周知しました。

生産者からは、「電球の点検を定期的に行い、切れている場合は速やかに交換する」「肥料を変更した際は、pHやECを測定して生理障害の発生を防ぎたい」といった声がありました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携し、巡回指導や調査研究を通じて、ミョウガの生産力の向上と安定化を目指していきます。

## I PMを活用した栽培に向けて ～津野山ミョウガ天敵試験～



ミヤコバンカーを設置する  
ミョウガ生産者

JA津野山みょうが部会では、春先のハダニ防除を目的としたミヤコブリダニバンカーの導入を目指し、3月9日から4か所で現地実証を行っています。

生産者からは「天敵のバンカーシートは組立作業があると聞いていたが、思ったより簡単で一人でも導入できそう」「天敵が働いてくれば大変な農薬散布作業が楽になるから期待したい」という声がありました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して、栽培上の問題や省力化に向けた課題解決に取り組んでいきます。